

イスラームから信仰に対する意識を考える②

おやさと研究所講師
澤井 真 Makoto Sawai

「ムスリム」という言葉は、言うまでもなく、イスラームという宗教の信仰者を指している。私たちは、預言者ムハンマドを通して神の啓示を聞いて改宗した人々や、イスラームの信仰家庭に生まれた人々を思い浮かべるかもしれない。しかしながら、ムスリムという語は、私たち日本人がイメージするものよりも広く理解されてきた。

アブラハムの宗教

ユダヤ教、キリスト教、イスラームという三つの宗教を呼び表すときに、「アブラハムの宗教」(Abrahamic religions)という呼び方をすることがある。この呼び名は、イスラームから見たユダヤ教とキリスト教に対する二つの認識が反映されている。

第一に、イスラームはユダヤ教とキリスト教と同様、預言者アブラハムが信仰した神を信奉する宗教だということである。「アッラー」とは、アラビア語で「唯一なる神」を意味する。アッラーとは、イスラームにおいて信奉されている神の名称ではない。⁽¹⁾すなわち、イスラームの信奉する神は、ユダヤ教・キリスト教の神と同様に、唯一神だということである。

第二に、イスラームの信仰的アイデンティティーを理解するには、アブラハム(アラビア語ではイブラーヒーム)という人物の信仰にさかのぼることで、初めて可能となる。それは、アブラハムはユダヤ教の預言者モーセ、キリスト教の預言者イエスよりも前に存在した預言者であり、イスラームを含む三つの宗教の祖に当たるからである。

元祖ムスリム—アブラハム

クルアーンに登場するアブラハムは、イスラーム以前に「ムスリム」であったと記されている。つまり、元祖ムスリムはアブラハムなのである。

神の(道の)ために、限りを尽くして奮闘努力しなさい。神はあなたがたを選ばれる。この教えは、あなたがたに苦業を押しつけない。これはあなたがたの祖先、アブラハムの教義である。神は以前も、またこの(クルアーン)においても、あなたがたをムスリムと名付けられた。(Q22:78)⁽²⁾

ここで、アブラハムに対して用いられている「ムスリム」とは、「イスラーム教徒」という意味ではなく、「唯一神を崇拝する者」という意味である。つまり、「ムスリム」というアラビア語を字義的に理解した意味であり、最も広い意味である。アブラハムは神の預言者として、イスラーム以前に存在した人物であるとともに、彼は預言者ムハンマドによって始まったイスラーム以前に、神の道を歩んだムスリムであるとみなされる。

なぜ、アブラハムはムスリムだったとクルアーンに書かれているのだろうか。それは、神がアブラハムを自分の息子を神に捧げるように命じたとき、神の道のためには、たとえ我が子であっても差し出そうという敬虔さを示したからである。そのときに、クルアーンには、差し出そうとした息子がイシュマエ

ル(アラビア語でイスマーイール)だったか、イサク(アラビア語でイスハーク)だったかは明記されていない。ともあれ、神に帰依し敬虔であったアブラハムは、イスラーム以前にすでにムスリム—神に帰依する者—であった、と理解される。こうした意味で、彼は「純粋な一神教徒」(ハニーファ)とも呼ばれている。



レンブラント「イサクの犠牲」

イスラームという宗教に対する認識

さらに、先に触れた「アブラハムの宗教」(millat Ibrāhīm)という語は、クルアーンのなかに登場する。ここで「宗教」と翻訳した「ミッラ」(millat)の語をどう理解するかは非常に重要な論点である。通常は、「ディーン」(dīn)との比較から、ある程度、体系化された宗教を指して用いられることが多い。

言ってやるがいい。「本当に主は、わたしを正しい道、真実の教え、純正なアブラハムの宗教に導かれる。かれは多神教徒の仲間ではなかった」。(Q6:161)⁽³⁾

「アブラハムの宗教」の呼称がイスラームに対して用いられるのは、イスラームという宗教が、アブラハムという祖先と同様に、信仰的敬虔さを根幹に据えた教えであることを示しているからである。

「ムスリム」という語が含意するものからイスラームを捉え直すとき、イスラームとは教団を意味するばかりでなく、ユダヤ教やキリスト教を含みこんだ「宗教」という意味を有することになる。「アブラハムの宗教」という語を通して、イスラームは歴史的に先行する二つの宗教との接続点を確保するとともに、二つの宗教を超歴史的に乗り越えつつ統合する視点を獲得する。この視点は、ムスリムたちの宗教意識において、イスラームという宗教が絶対的真理を伝える教えであるという確信を生み出す原動力となっていると言えるであろう。

[註]

- (1) ただし、イスラーム思想の発展のなかで、「アッラー」という語に特別な意味が付与されるようになった。
- (2) クルアーンの邦訳は以下を参照したが、文脈に応じて訳語を変更した箇所もある。『日亜対訳・注解 聖クルアーン』日本ムスリム協会、1982年。
- (3) 『日亜対訳・注解 聖クルアーン』では、「イブラーヒームの信仰」と翻訳されているが、「アブラハムの宗教」と改訳した。